

# Project of propagating industrial art of Takaoka

## 高岡地域伝統工芸情報発信事業「SONIC号(博多～大分)における作品展示」

高岡市・富山大学芸術文化学部・JR 九州

富山大学芸術文化学部准教授 矢口 忠憲



### 本プロジェクトの経緯

平成 22 年度、高岡市からの依頼により、北陸新幹線車両に高岡の伝統素材・工芸品の採用を促すための提案書を作成した際、先行事例である新幹線「つばめ」を調査するため JR 九州を巡り、車両設計部の方々と、デザイン顧問の水戸岡悦治氏にヒアリングを行った。

翌年平成 23 年、本学部と富山県との包括提携による『富山県デザイン経営塾 6』—「伝統の与件」再構成による新ジャンルへの展開—を、高岡伝統産業青年会のメンバーを対象に開講した際に、JR 九州車両運輸部の大坪氏と榎氏を講師として招聘し、第 2 回目のセミナーとワークショップを行った。この時の来県が、高岡地域の伝統工芸品のクオリティーの高さを JR 九州に認知してもらう絶好の機会になったようである。

この様な経緯から、今年年明けに、JR 九州より『私どもの車両（SONIC：博多～大分～佐伯）に高岡の伝統工芸品を展示してみませんか』とのお誘いを受け実現したプロジェクトである。

### 主催

高岡市：高岡地域地場センター  
高岡市デザイン・工芸センター  
富山大学芸術文化学部

### 共催

九州旅客鉄道株式会社 運輸部

### プロデューサー

矢口忠憲：富山大学芸術文化学部

### 実行委員

東保英則：高岡地域地場産業センター / 専務理事  
海下孝司：高岡地域地場産業センター / 事務局長  
高川昭良：高岡市デザイン・工芸センター / 所長  
秦志津恵：高岡地域地場産業センター / 主査  
秋元 宏：高岡市デザイン・工芸センター / 技師

### はじめに

高岡地域地場産業センターでは、工芸品を中心とした富山県内の地場産品の普及・情報提供事業を行っており、県内外において、見本市や公共施設等様々な展示機会を活用し、県内地場産業品の紹介を行っているところである。今回の情報発信事業は、九州旅客鉄道株式会社のご協力を得ることにより、富山・高岡の地場産業技術・文化を、遠方の九州地域で紹介する好機となった。

### 展示場所・期間

ソニック 883 系は 8 編成（7 両）により、博多～大分間を結び、旅行客や沿線住民の皆さまを運んでいる。ギャラリースペースは、1 編成あたり奇数車両（2 車両又は 3 車両）のデッキ部にそれぞれ 2 カ所（左右が対）ずつある。今回は、各編成 4 カ所 × 7 編成（整備点検の為に工場入りしている 1 編成を除く）の合計 28 作品を展示することになった。



図 1 （左）特急列車 883 系「ソニック号」／（右）デッキ部に設けられたギャラリースペース（両サイド柱の上部が展示ボックス）

第 1 期：6 月 1 日～ 8 月 31 日（3 ヶ月間）

第 2 期：9 月 1 日～ 11 月 30 日（3 ヶ月間）

### 展示企画

JR 九州から依頼を受けた際、そのユニークな展示形態の魅力と同時に企画・実施に向けて難しさも感じた。遠方で且つ公共交通機関における一方通行的な展示であること、つまり富山・高岡を知らない人達が対象で、特殊な展示スペースであること、公共機関での展示であることからくる発信する情報量や内容に制限をうけること、また初めて



の経験となるであろう動く（常時振動を伴う）展示スペースにどのように作品を設置（固定）するかなど次々と課題がでてきた。まずは、今機会を有効に生かすため、また先を見据えて、個別作品の展示ではなく、オール富山・高岡で対応する（情報発信）ことが望ましいと考え、高岡市デザイン・工芸センター、高岡地域地場産センターと連携し、実行委員会を立ち上げた。そこで企画立案、作品セレクト、ポスター制作、HP 制作、作品展示の準備（作品台／背景紙／キャプション／作品の固定）などを行い、5月中旬にJR 九州と覚書を取り交わし、実施に至った。

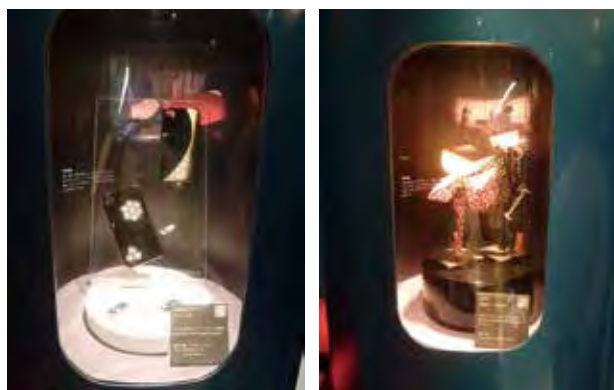


図2 （左）iPhone カバー（漆・螺鈿）／（右）おわらを舞う人形（越中和紙）

## 展示内容

展示作品は、高岡銅器と中心として高岡漆器、庄川挽物、井波彫刻、越中和紙などオール富山・高岡地域のものを対象として選定にあたった。また、それぞれのジャンル毎、伝統と革新をテーマに選定にあたった。その他の制約としては、狭い展示スペース（270φ×600H）に入る大きさで且つ固定方法（釣糸／両面テープなど）に適していることが上げられた。

展示環境としては、作品の形状や大きさに応じて高さ（2種類）、色（朱／黒／白の3色）の台を用意、素材を木製とし、二次加工により展示ボックス及び作品との固定を図った。背景紙は作品を引き立たせるようダーク色とし、それぞれの技法の特徴などを示す、文字情報とイメージカット



図3 富山・高岡地域の伝統産業工芸品紹介ポスター。場所を示す地図に加え、作品の詳細情報提供の為のQRコードも印刷。

を盛り込んだ。平面的な作品や小物は、アクリル板の曲げ材にディスプレイした。

個々の展示作品に加え、地場もPRする為、高岡地域の伝産品を紹介したポスターを制作し、ギャラリースペースの両展示ボックスの間に掲示した。場所を示す地図と、HPにアクセスできるQRコードを表示。



図4 本プロジェクト専用のHP。上記ポスターに印刷されたQRコードから直接、お客様に詳細情報を提供できるように新設。

## おわりに

本プロジェクトにより、新しいネットワークによるユニークな情報発信の形態を経験することができた。今後は、反響なども含めた追跡調査・分析等を行い、新たな発信事業の展開を図っていきたい。